

私は犯され
続けていました

彼らの激しい性行為で
消耗させられた私は

大した抵抗を
することもできず

勢いよく吐き出される
精液に子宮を焼かれ
続けていました

ああああ…っ
また…子宮に
入ってきてる…!!!

本当に孕んでしまう…

このままじゃ…

それどころか…
ヒカリちゃんの
返事もない…

この精液の
せいなの？

子宮が熱い…

この時…

私は気づいて
いませんでした…

気づいたときは…
既に手遅れだった
ということ…

すでに私のお腹には
彼らの楔が打ち込まれた
後だということに…

私がこれ以上犯されないよう
抵抗していると

奥から群れの長と
思われる
怪物が現れました

そして何より——

今まで私を犯してきた
怪物達より
二回りも大きい…

頭につらってるのって…

損傷してるけど
間違いない

——コアクリスタル!?——

『ひっ!!』

…なんて
大ききなの…!!



「待って!!」

「無理、
入るわけないっ!!」

「やっ!!」

「やだっ!!」

まさか水着ごと
膣内……に……!!

「やめ……っぐうっ!!
無理に入るわけない!!」

「無理だからあつ!!」

「あっ!!」

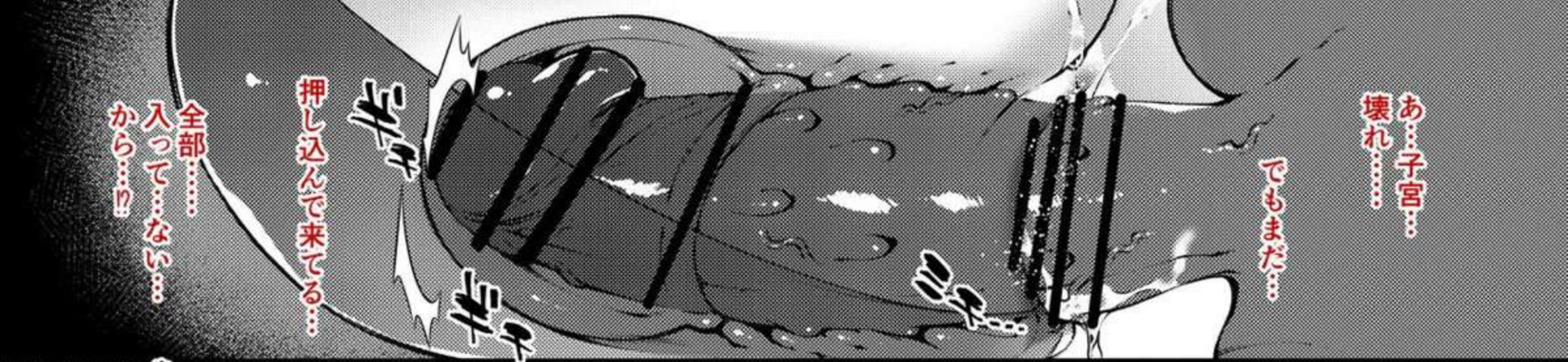
ダメ……

『「あ」あ「あ」ああああああつ!!』

体ごと……
押し付けてきて……!!

鈍い音を立てて
硬く閉じた子宮の入り口を
強引に突破してきた
怪物の性器は

その奥にある子宮壁に
勢いよくぶつかり
私の下腹は妊婦のように
盛り上がりました



あ…子宮…
壊れ…

でもまだ…

押し込んで来てる…

全部…
入って…ない…
から…!!



壊されてしまう…!!



だ…め…

こんなのブレイド
でなければ
シヨック死してる…

こんなのが…
続いた…ら…っ



壊れる…

壊れちゃう…っ!!

私自身が…



「あ…」
「ああああ……」

い…いつの間に…!?

——コアクリスタルを
占領するための抜け道——

『バックドア』を——



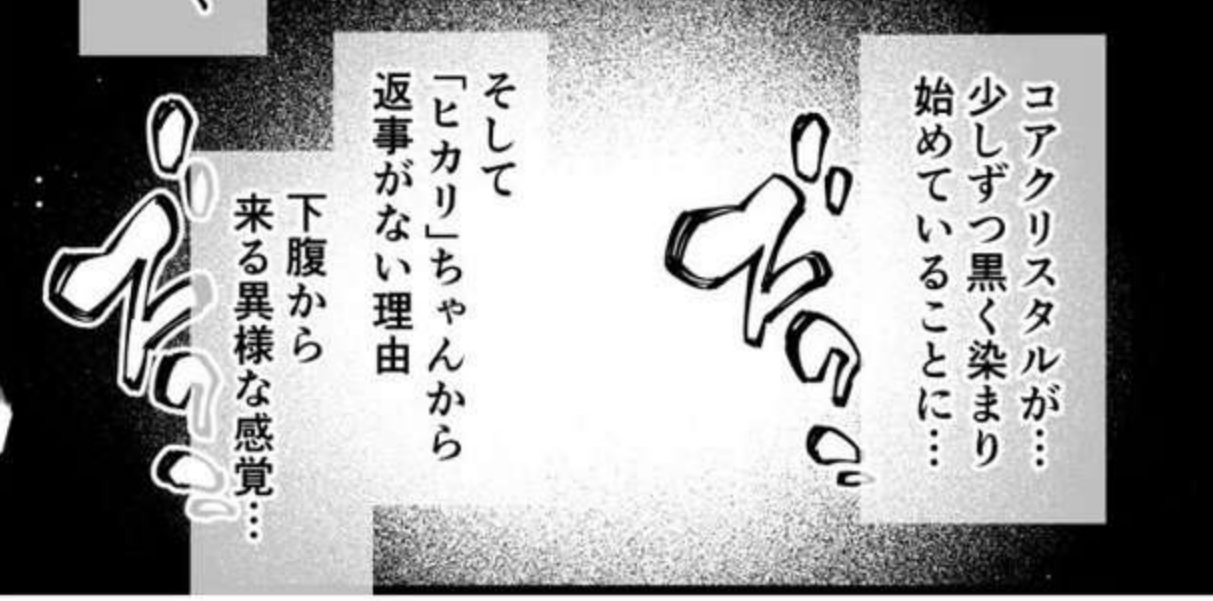
内側にも…
何か入り始めて…

それだけじゃない…!



ここにきてようやく
気付いたのです

……これは…?!



コアクリスタルが…
少しずつ黒く染まり
始めていることに…

そして
「ヒカリ」ちゃんから
返事がない理由

下腹から
来る異様な感覚…



怪物達は私をむやみに
犯していたわけではない

無防備にした私の子宮へ
刻み付けていたのです

出て来ないのでではなく
出てこれない——

ヒカリちゃんも
今コアクリスタルの中で
何かに……

「だめだめだめっ!!!」

犯されているのだ
ということに

そして

追い打ちをかけるように
怪物がさら激しく
私の子宮を犯してきたのです

それは「射精」の兆候

私は全力で叫び
抵抗しました

——射精させてはならない——

この怪物の精液を
受けたら本当の意味で
敗北してしまうという

女としての本能が
私にそう告げていたのです

そんな願いも空しく

コアクリスタルは
次第に黒くなっていき……



雄たけびと共に
欲望の塊が
私の子宮に放たれたのです

何かが爆ぜる
音と割れる音が2つ

それは私の子宮内と
胸元で鳴り響いた

コアクリスタルは
大きな亀裂とともに
破裂し……

その輝きは黒い力に
押し出されるように
放出されました

断末魔のような悲鳴

全身の骨が砕けそうなほど
押し付けられた私に
逃げることはできず

快楽が全身を
駆け巡り、私のお腹は
妊婦のように膨れ

アソコからは
入りきらなかった
精液が洪水のように
溢れ出てきたのです

「あ……がはっ……」

—その後も私は
しばらく
怪物の性器で
貫かれたまま
犯され続けました

コアクリスタルは
輝きを失い
完全に制御を乗っ取られ
てしまいました

私はブレイドの力を
行使することも
出来なくなつて
しまいました

力のなくなった私は
避妊することも出来ず

今頃子宮の中では精液が
卵子目掛けて移動を
しているかもしれません

私の懇願も空しく
怪物は再び腰を
振り始めます

「もう…許して…」

私は小さな
うめき声をあげながら
彼女の名を呼び…

意識を手放した
のでした…

怪物が再び私の
子宮に射精する

「ヒカリ…ちゃん…」